

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【海草振興局】重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】
～天敵導入に向けた実証試験の調査～

令和8年5月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 温州みかんの樹に仕事をさせよう！「匠の技 伝道師」研修会	
2. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～天敵導入に向けた実証試験の調査～	
II 那賀振興局	2
1. 根来小学校で「ねごろ大唐の出前授業」を実施	
2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会が総会、研修会を開催	
III 伊都振興局	3
1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】 ～農業技術講習会果樹コース（かきの生理落果・病虫害対策）の開催～	
IV 有田振興局	4
1. 有田地方生活研究グループ連絡協議会総会・研修会を開催	
2. 令和8年度田んぼの学校（有田市立糸我小学校）がスタート	
V 日高振興局	5
1. 日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議の開催	
2. 日高地方花き連合会が花育活動を実施	
VI 西牟婁振興局	6
1. 西牟婁農業プロジェクト協議会総会を開催	
2. 上富田町都市と農村の交流事業実行委員会が「梅取り体験」を実施	
VII 東牟婁振興局	7
1. 令和8年産柑橘類の着花状況調査結果	
2. 古座川ゆず平井の里第22回総会の開催	
VIII 農林大学校	8
1. 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会に参加	
IX 経営支援課	9
1. うめ摘心＋カットバック処理に係る研修会を開催	

I 海草振興局

1. 温州みかんの樹に仕事をさせよう！「匠の技 伝道師」研修会

農業水産振興課では、年に3回「匠の技 伝道師」研修会を実施している。令和8年度の第1回目として5月15日、海南市下津町内の温州みかん園地において、橋詰 孝氏による栽培技術研修会を開催し、生産者24名の参加があった。

本研修会は、令和4年度から主要な作業時期別に開催しており、2月にせん定研修会を行った園地において、花のつき方の確認と今後の管理について研修を実施した。はじめに、岩橋普及指導員から昨年の生育概況及び今年の開花、生育状況について説明を行ったあと、橋詰氏から園地の樹を用いて説明が行われた。

橋詰氏からは、「開花で疲れた樹の栄養状態を良好にすることが大切。自分は桜の満開期に即効性の肥料を散布する。さらに防除の際に液肥を混用散布して新芽の緑化を5月中に完了させること。これを最低3年続けることで新梢の発生が多くなり、緑化が早い」と説明があった。また、近隣にある参加者の園地へ移動し、樹の状況を確認しながら意見交換を行った。参加者からは、生育時期ごとの栄養素の効かせ方や肥料の種類等で質問があり、活発な研修会となった。



園地での橋詰氏による説明

2. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～天敵導入に向けた実証試験の調査～

農業水産振興課では、新規参入したいちご農家の安定生産を実現し、産地化に繋げるために普及活動を行っている。

いちご栽培では、農薬散布等の作業省力化と、害虫の薬剤抵抗性の発達防止が課題である。またハチなどの訪花昆虫を利用することから、化学農薬に頼らない栽培体系を確立する必要がある。そこで、当課では、管内での利用実績が少ないアザミウマ類の天敵であるククメリスカブリダニの導入に向けて実証ほを設置し、毎月1回、当該天敵の定着状況、アザミウマ類の害虫数及び被害果数を調査している。

5月25日の調査の結果、当該天敵の定着とアザミウマ類の発生抑制が確認でき、被害果は確認されなかった。今シーズンの調査はこれが最後となるが、今後は他の農家への導入も検討し、地域全体における天敵利用技術の定着と普及を図る。



花たたき法による調査

Ⅱ 那賀振興局

1. 根来小学校で「ねごろ大唐の出前授業」を実施

5月12日、岩出市立根来小学校の3年生62名を対象に、ねごろ大唐の出前授業を実施した。根来小学校の3年生は、総合的な学習の時間にねごろ大唐をテーマに栽培などに取り組んでいる。

小野寺普及指導員が、ねごろ大唐の特徴や名前の由来、栽培方法、食べ方についてクイズを交えて説明した。児童からは「一日何本ぐらいねごろ大唐が収穫できますか」、「一日にどのくらい水をあげたらいいですか」、「ねごろ大唐はなぜ緑色をしているのですか」等の質問があった。



授業風景

2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会が総会、研修会を開催

5月14日、那賀地方生活研究グループ連絡協議会（会長：坂口富子氏）は、那賀振興局において総会を開催し、会員15名と関係者が出席した。議案はすべて原案どおり承認された。

総会後の研修会では、和歌山ヤクルト販売株式会社広報企画課の中村亜美氏を講師に招き、「腸元気生活のすすめ～意外と知らない！？ウンチの話～」と題して講演いただいた。講師からは健康な便の状態、腸内環境と健康の関わり、腸内環境改善に良いとされる食品等についてクイズや腸活体操を交えて講話があった。参加者からは「腸活体操は座ってできる簡単な体操なのに、思ったよりしんどい」といった感想があがった。



新役員紹介



腸活体操

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

～農業技術講習会果樹コース（かきの生理落果・病虫害対策）の開催～

農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい方の技術・経営力向上のため、果樹（かき）の栽培講習会を開催している。5月21日に、開花後の管理として、生理落果や品質向上対策および病虫害防除について講習会を実施し、8名が受講した。

はじめに、津田普及指導員から、生理落果の発生要因とその防止対策、果実肥大と着色促進のための環状はく皮および新梢・樹勢管理について説明し、続いて、柏本副主査からかきの病虫害防除について説明した。その後、九度山町の園地に移動し、環状はく皮処理の実習を行った。受講者からは、かきの樹勢の判定方法や新梢の管理法について質問があった。

当課では、12月までに合計5回の講習会（果樹）を実施し、栽培指導を続けていく。



座学の様子



現地研修の様子

Ⅳ 有田振興局

1. 有田地方生活研究グループ連絡協議会総会・研修会を開催

5月25日、有田地方生活研究グループ連絡協議会（会長：宮地スミ子氏）が、有田振興局大会議室において総会および研修会を開催し、会員20名が出席した。

議案は全て原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、新会長に栗山恵美子氏が就任した。

総会後の研修会では、有田振興局健康福祉部衛生環境課の檜山主査から、「食品の安全性の確保について～食品添加物についてのお話～」と題して講演があった。会員からは「食品添加物への理解が浅く、使用はなるべく避けたいとの思いがあったが、正しい知識を得られたことで見方が変わった」という感想が聞かれた。



研修会開催の様子

2. 令和8年度田んぼの学校（有田市立糸我小学校）がスタート

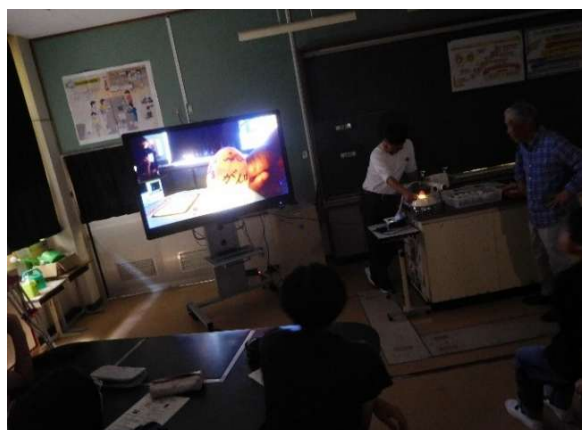
糸我地区青少年育成会が、第26回「田んぼの学校」（校長：山崎佳彦氏）を有田市立糸我小学校においてスタートさせた。「田んぼの学校」では、5年生12名の児童が「総合的な学習の時間」に、田植え、稲刈りなど年間を通してアイガモ農法による米作りの体験を行う計画となっている。5月8日に種まきを行い、20日に孵卵器に入れたアイガモの卵の発育状況を確認する検卵を実施した。

種まきでは、まず山崎氏と農業水産振興課の職員が、種もみの発芽に必要な条件や作業について説明し、その後、児童らが苗の生育が揃うよう丁寧にキヌヒカリ、モチミノリ、黒米の種もみを播いた。

検卵では、山崎氏と当課の職員が、孵化に必要な条件や、受精卵の成長について説明した後、児童らが孵卵器から取り出した卵に光を当てて観察した。かすかにヒナの体の器官が見える様子を歓声を上げ、「孵化が楽しみ」と期待を膨らませていた。6月には田植えを行った後、アイガモを放鳥する予定である。



種まきの説明をする山崎氏



検卵の様子

V 日高振興局

1. 日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議の開催

5月13日、農業水産振興課は、J Aわかやまがいなポートにおいて、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催した。参画機関は管内各市町、J Aわかやま紀州地域本部、県関係機関で、当日は26名が出席した。

会議では令和7年度の被害状況や調査実績の報告、令和8年度の調査方針、注意喚起の啓発、住民や生産者等からの通報対応、対策に係る補助事業等について検討を行った。

管内のクビアカツヤカミキリ被害は拡大しており、拡大防止のためには被害樹の早期発見や薬剤散布、ネット被覆、伐採・伐根などの対応を産地全体で取り組んでいくことが重要である。当課では、今後も関係機関や生産者と連携し、対策に取り組んでいく。



連絡会議開会の挨拶

2. 日高地方花き連合会が花育活動を実施

5月15日、日高地方花き連合会（会長：中尾貴宏氏）は、子どもたちに日高地方が全国有数の花き産地であることを知ってもらい、花に親しみを持ってもらうことを目的に、今年も「花育活動」を実施した。この活動は平成21年から実施しており、今回で18回目となった。

子どもたちに贈る花束は、花き生産者から提供いただいた切り花を用い、前日の5月14日に花き連の役員らが作製した。

当日は、日高地方農業士会（会長：月向雅彦氏）の協力を得て、管内全小学校の5、6年生及び特別支援学校（計25校）を対象に、日高地方の様々な切り花を用いた花束と日高地方の花きを紹介したリーフレットを配布した。また、「ミニ花束づくり体験」の希望があった5校では、花き連役員や農業士の指導のもと、児童が花束づくりに挑戦した。児童はそれぞれ好きな花を選んで花束を作り、メッセージを添え、家族にプレゼントするのを楽しみにしていた。



ミニ花束作り体験
（日高川町立川辺西小学校）



作った花束を持って記念撮影
（みなべ町立岩代小学校）

VI 西牟婁振興局

1. 西牟婁農業プロジェクト協議会総会を開催

西牟婁地方の農業および農村地域の発展を図るため、J A各地域本部（紀南、紀州、みくまの）、市町（田辺市、白浜町、上富田町、すさみ町、串本町）、農業者団体代表、普及指導協力委員、振興局農業水産振興課（西牟婁、東牟婁）で組織する当協議会の総会を5月14日にJ Aわかやま中央営農経済センターで開催した。

果樹（うめ、みかん、すもも）の高品質安定生産実証やクビアカツヤカミキリ被害調査、野菜・花き（いちご、トルコギキョウ、ストック）のスマート農業の推進や土壌病害対策、省力化技術実証等の生産対策、県内外でのうめの出前授業等の消費拡大対策、研修会実施による担い手対策に関する実績等について、各担当者から報告した。

出席者から、うめの摘心処理技術やクビアカツヤカミキリ対策、消費拡大PR等、うめに関することを中心に質問や意見が多数あり、それらを踏まえ今後の活動を実施していく。



総会の様子

2. 上富田町都市と農村の交流事業実行委員会が「梅取り体験」を実施

上富田町の基幹作物であるうめとみかんの消費拡大を図るため、上富田町、J Aわかやま及び西牟婁振興局農業水産振興課を構成メンバーとして、都市と農村の交流事業実行委員会（委員長：谷本雅司氏）を設置し、毎年都市部の市場関係者や消費者を招待してうめやみかんの収穫体験を実施している。

5月29日、J Aわかやま富田川営農経済センターにおいて、谷本委員長、上富田町山本副町長、J Aわかやま紀南地域本部笠松副部長及び西牟婁振興局農林水産振興部中地副部長による歓迎の挨拶の後、現地にて、（株）熊谷青果市場及びコープ関係者17名がうめの収穫体験を行った。

収穫体験に先立ち、行森普及指導員から管内のうめの栽培概要や品種及び収穫の方法について説明した。

参加者は、今年の収穫時期・収量の見通しについての意見の他「採りごろの果実はどう見分ければよいか」、「果実の傷は味に影響しないのか」等の質問をしながら籠いっぱい果実を収穫した。翌日、J Aわかやまの直売所である紀菜柑において、うめジュースに加工して持ち帰った。

なお、みかんの収穫体験は9月下旬に神戸市方面の消費者40人を招待して開催する予定である。



栽培概要の説明



収穫方法の説明

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 令和 8 年産柑橘類の着花状況調査結果

農業水産振興課は 4 月 30 日、5 月 11 日、15 日に J A、太地町役場、各生産団体、県関係機関と協力し、東牟婁地域の柑橘類の着花状況調査を実施した。今回はポンカン 12 園地、ユズ 29 園地、ジャバラ 7 園地の計 48 園地の着花数や新梢の発生程度を調査した。

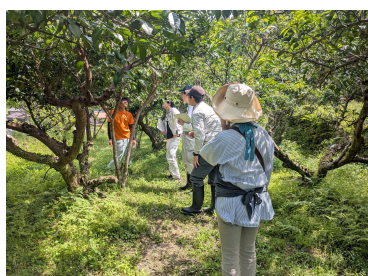
調査の結果、着花数については、ポンカンは平年、昨年よりも少なく、ユズは平年より少ないが、昨年より多く、ジャバラは平年と同程度であり、昨年より少なかった。

また、満開期については、ポンカン及びユズが平年よりも 5 日程度、昨年よりも 2 日程度早く、ジャバラは平年よりも 6 日程度、昨年より 2 日程度早かった。

ほ場ごとにばらつきがあり、着花数が少ない園地が確認されたことから、収量を確保できるよう、今後の栽培管理作業の指導に調査結果を役立てる。



ポンカン



ユズ



ジャバラ

各品目の調査の様子

2. 古座川ゆず平井の里第 22 回総会の開催

5 月 23 日、古座川町平井区民館にて、古座川ゆず平井の里（代表理事：倉岡有美氏）の第 22 回総会が開催された。倉岡代表の挨拶と大屋古座川町長の祝辞の後、令和 7 年度事業および会計、令和 8 年度事業および予算の議案、定款の改定等が承認された。

また、総会后、農業水産振興課の中家技師が「職場における熱中症防止のためのガイドライン（農業者向け）」を参加者に配布し、熱中症に関する注意喚起を行った。

当課では収穫目標達成にむけた栽培管理、改植の指導を実施していく。



古座川ゆず平井の里代表理事

倉岡氏の挨拶

VIII 農林大学校

1. 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会に参加

5月28～29日にかけて、大阪府で行われたスポーツ大会に参加した。

県農林大学校は、卓球、バドミントン、バレーボール、綱引きの4種目に出場し、卓球がダブルスで優勝、団体で3位、バドミントンがシングルスで準優勝、団体で3位と健闘した。

大会前には、放課後に練習をしたり、経験者が競技経験のない者にルールを説明したりするなど、学生が自主的に大会に向けた準備を行っていた。

大会当日も、学生が率先して準備し、声をかけ合い競技に向かう頼もしい姿が見られた。また、大会中は、他府県の農業大学校生との会話を楽しむなど、交流を深めていた。



バドミントン競技



和農大集合写真

IX 経営支援課

1. うめ摘心+カットバック処理に係る研修会を開催

5月26日、経営支援課は、うめ産地で普及を進めている「摘心+カットバック処理」について、技術上の課題等を整理、共有し、今後の普及活動に生かすため、有田、日高及び西牟婁振興局農業水産振興課の普及指導員及びうめ研究所の研究員を対象に研修会を開催した。

研修会では、本技術を導入した現地ほ場を巡回し、処理状況の確認や、技術導入時のポイントについて話し合った。参加者の間で「摘心を行う際は結果層が厚くなりすぎないように新梢を出来るだけ短く切り揃える」、「カットバックを行う際は減収分をカバーできるように垂主枝（摘心済）を仕立てておく」等、有意義な意見交換が行われた。また、いずれのほ場においても、処理樹の着果量は慣行樹に比べて多く、本技術はうめの着果安定生産を行ううえで有用であると感じた。当課では引き続き、本技術の普及を推進していく。



ほ場での意見交換



処理樹の状況

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489